

**グローバルスタートアップキャンパス構想**  
**《事業化支援プログラム》**  
**BRIDGE BY ACTIVATE 公募要領**

GATS プロジェクト運営事務局（運営支援機関）

## ■ 本事業の目的

政府が掲げる GSC 構想では、国内外の優秀で野心的な研究者及び起業家、スタートアップ、先見的なベンチャーキャピタル（以下 VC とする）、アクセラレーター及びインキュベーター、企業との連携により、我が国全体のイノベーション・エコシステムの変革を促進し、世界最高水準のイノベーション・エコシステムのハブを構築することをミッションとしている。「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想先行的活動に関する実施方針（令和 7 年 6 月 10 日）」及び「同実施細則（令和 7 年 6 月 10 日）」では、世界から優れた人材・投資を集める呼び水となるよう、海外機関との連携による、①研究者・投資家等の集積に向けた国際研究、②事業化支援、③人材育成（フェロースhip）を先行的活動として一体的に実施し、これらの取組を通じて、本構想の実現に向けた取組の具体化・高度化につなげるとともに、ステークホルダーとのパートナーシップを構築することとされている。

本プログラムはその中の②事業化支援の中で、DeepTech 分野において累計 200 社以上のスタートアップを輩出してきた、米国 DeepTech 起業のエコシステムを牽引する Activate による、シリコンバレーやボストンなど全米主要都市のエコシステムと接続し、事業アイデアの実現可能性検証・ブラッシュアップなどを通じた事業化支援プログラムである。詳細は以下のとおり。

## ■ BRIDGE BY ACTIVATE（実施概要）

日本においては、米国と比較して世界的規模に成長するメガベンチャーの創出数や大型の企業買収につながる件数が依然として限定的である一方、大学・研究機関を中心とした DeepTech 分野の国際的競争力を有する技術シーズは豊富に存在している。

こうした技術シーズを社会実装・事業化へと導き、持続的にメガベンチャーを輩出していくためには、研究成果を単なる「試作」に留めるのではなく、世界の投資家が熱望する「投資適格（Investment-Grade）」な事業へと昇華させるための事業実現可能性検証やブラッシュアップのための知見と機会が必要であり、本プログラムはそれを対象者である研究者自身に提供することを目的としている。

本プログラムの核は、米国のビジネス現場の熱量に直接触れる体験にある。対象者は Activate が対象者に合わせて設計する活動や、彼らを選びすぐった、ディープテック領域に精通した技術バックグラウンドを有する起業家のメンター（予定 ）との対話を通じ、研究者としての卓越した専門性を活かしつつ、世界市場でインパクトを与えるための「事業家としての視点」を、新たに獲得する。

加えて、事業化に資する研究活動を最大化するため、挑戦を阻む心理的・経済的ハードルを徹底的に取り除く。具体的には、創出された知的財産（IP）の対象者への 100%帰属はもちろん、奨励金（以下参照）の提供により、研究開発と事業開発へ集中可能な環境を提供する。大学に籍を置いたまま、リスクを最小限に抑えグローバル市場へ挑戦するアドバンテージを獲得することができる、研究者のための戦略的事業化支援プログラムである。

## Activate 概要

科学者やエンジニアがディープテックを社会実装し、起業家として成功できるよう支援する米国拠点の非営利組織。

科学者が画期的な研究を迅速かつ大きな影響力をもって市場に投入できるよう支援。

特に、長期的な研究開発と多額の設備投資が必要な「ハードテック」分野における「死の谷」を埋めることに注力。

連邦政府、州政府、慈善財団、企業など多様なパートナーからの資金で運営されており、短期的な金銭的リターンよりも長期的な社会的インパクトを最優先している。

### 【主な実績】

- 294 人のフェローを支援し、235 社の企業を設立。
- フェローが率いる企業は5 0 億ドル以上の追加資金を調達し、投資対効果は 50 倍に到達。
- 3,000 人以上の新規雇用を創出し、1 億 3,600 万ドル以上の収益を上げている。
- 企業の生存率は 96 % と高い。

## 1. 活動期間と主な活動内容

- 活動期間：2026 年 8 月～2027 年 4 月（9 ヶ月間）
- 活動時間：月 12 時間～20 時間程度
- 活動内容と活動時期：

A) メンタリングやコーチング等のオンライン上での事業化支援：2026 年 8 月～2027 年 4 月)

- 1:1 メンタリング：月 1 回 60 分、Activate が設定する 起業家のメンターとのオンラインメンタリングを実施する。この対話を通じて、対象者は最優先課題の特定やその解決に取り組む。
- グループコーチング：月 1 回 90 分、本プログラムの対象者がオンライン上に集まり、グループコーチングとしての横断テーマを深掘りする議論により、対象者間の相互フィードバックによる学び効果の最大化を図る。
- ピア・ポッド学習：

Activate の独自メソッドに基づく学習や対象者間で相互支援・相互学習等を通じて、研究成果の事業化のために必要な知見の獲得を図る。また、これらの学びに基づき事業化検討を推進する。

B) 日本での対面ワークショップ（第 1 回）：2026 年 8 月（3 日間）

- 起業に関する基本概念の習得、動機やマインドセットの整理、ならびにコミュニティ形成を目的とした 3 日間のワークショップを実施。

C) アメリカでのトレーニング（US Immersion）：2026 年 10 月（1 週間）

- 2026年10月に、1週間アメリカに滞在し、Activateの現役フェロー、卒業生、投資家、大手企業等、ディープテック・エコシステムと直接つながるための研修に参加する。
- 研究所、スタートアップ、イノベーション拠点への訪問に加え、投資家・産業リーダー・政策関係者との対話型セッションを行い、ディープテック企業が米国でどのように運営されスケールするかを把握する。
- 本研修への参加を通じ、対象者は技術の国際展開を進めるための、具体的提携先・洞察・次ステップをまとめた個人用 Global Connections Plan等を構築することが可能。

※US Immersionは、プログラム期間中の2026年10月に実施予定。

正確な時期は、各コホートの年間スケジュールと、参加者に有用な米国側活動と重なるように調整し決定される。

D) 日本での対面ワークショップ（第2回）：2027年4月

- 東京のディープテック・イノベーションエコシステム関係者が参加するショーケース形式のイベントにおいて、自身の取り組みについてピッチを行う。

※活動期間と主な活動内容は変更になる可能性がありますので、ご注意ください

## 2. 支給・支援内容

A) 奨励金：総額 1,500,000 円（※1）

プログラム参加時及び終了時の2回、各回 750,000 円を支給

B) 集中プログラム参加時の渡航費・滞在費（※2）

※1：事務局より支払う。なお本奨励金は活動実態に応じて、活動時間に時間単価（別途採択時に通知、上記想定活動時間内で総額となるように設定する）を乗じた金額により算出する。そのためプログラム参加時においては概算（仮の金額）としての支払いとなる。対象者がプログラム参加中に作成する業務日誌（別途採択時にフォーマットを支給）に記載の本プログラム関連の活動時間に基づき額を確定する。なお、業務日誌の提出及び額の確定はプログラム終了時に行う。確定額が奨励金に満たない場合は、終了時の奨励金から未達分を差引き支給する。一方確定額が奨励金を超える場合に、追加の奨励金の支払いは行わない。

※2：上限あり。加えて以下の経費は対象外。また渡航費・滞在費は、予め対象者自らが取得したものについて、領収書及び各種証票（採択時に支給するマニュアルに清算方法を記載予定）及び請求書を受領後、当月締め翌月末払いにて事務局より清算払い。

- 1 エコノミークラスを超えるクラス（プレミアムエコノミー、ビジネスクラス等） に搭乗するために要する追加費  
（電車、船等の場合も、原則最も低いクラスの移動費のみが対象）
- 2 滞在時の飲食費・懇親・遊行関連費
- 3 上限を超過した渡航費・滞在費
- 4 本プログラム参加に直接的に必要と判断できない費用
- 5 対象者本人以外の渡航費・滞在費や上記①～④に該当する費用

### 3. 参加者の要件等

参加者は、上記に記載する類型毎に、以下に記載する必須要件を満たす必要がある。また合致する任意要件がある場合は審査において加点評価を行う。

《必須要件》

- A) 大学院在籍者、アカデミア所属の研究者（博士研究員、教職員）
- B) 技術シーズに基づく起業に初めて主体的に取り組む意欲があること（連続起業家は対象外）
- C) 製品の量産・販売前であること。会社設立済みの場合、エクイティ調達（J-KISS 等含む）を未実施であること
- D) 週 3～5 時間、月 12～20 時間程度のプログラム活動（メンタリング、コーチング、個別作業等）を確保できること
- E) 英語で円滑なコミュニケーションができること
- F) 日本国内の重要技術の国外流出につながる、もしくはその懸念のある活動等に参画及び関与しないことを誓約することができること

### 4. 選定人数

若干名

### 5. 公募期間

以下の通りのスケジュールにて公募を実施する。期間中は申請都度、順次以下 5. に示す通りの審査を行い、採択を行う。

公募期間：2026 年 4 月 1 日（水）～2026 年 6 月 1 日（月）

## 6. 選考プロセス

### A) 書類審査（英語のアプリケーションフォーム）

基本要件の学歴、言語レベル、技術領域等公募申請情報について事務局内で書類審査を実施

### B) 運営チーム及び Activate による審査（面談）

基本要件の専門性、英語でのコミュニケーションスキルの評価に加え、技術シーズに基づく起業に対する熱意、技術シーズの事業性、リーダーシップの評価や、本プログラムへの参加にあたって確保可能な時間の確認等を実施

### C) アドバイザー等による最終確認

参加者としての総合的な適性を評価

参考情報：GATS プロジェクト運営事務局（運営支援関）概要

本事務局は、内閣府が推進するグローバルスタートアップキャンパス構想（詳細は以下 URL 参照）における、②事業化支援・③人材育成事業に運営支援機関として採択されたもので、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社と株式会社博報堂の連携により運営されている。

グローバルスタートアップ構想概要：

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/global\\_startup\\_campus\\_initiative/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/global_startup_campus_initiative/index.html)

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社概要：<https://www.utokyo-ipc.co.jp/>

株式会社博報堂概要：<https://www.hakuhodo.co.jp/>

本事業概要：<https://gats-web.jp>

お問い合わせ先：[info@gats-web.jp](mailto:info@gats-web.jp)